

小論文

北里大学医学部 2025 年度型 そっくり類題 3 日分

※ これは北里大学の入試問題ではありません。
2025 年度の出題形式（課題文＋問一～問三・90 分）をもとに、
TMPS 医学館が題材と本文を新しく作成したオリジナル問題です。

試験時間の目安：1 日分につき 90 分

- ・ 類題①（2/8 型）・類題②（2/9 型）・類題③（2/10 型）の 3 題です。1 題ずつ、90 分で解いてください。
- ・ 問一・問二は短い原稿用紙、問三は 20 字×40 行（800 字）の原稿用紙に、横書きで解答してください。
- ・ 句読点や「」も 1 字として数え、制限を超えないようにしてください。段落の最初は 1 マスあけます。
- ・ 実際の解答用紙の形式は大学の発表を確認してください。この冊子の原稿用紙は TMPS の練習用です。
- ・ 解答例と解説は、解説ページ（TMPS 医学館の過去問解説図書館）に掲載しています。

類題① 2/8 型（相手の話を聴くとは）

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは日常、「聞く」と「聴く」を区別せずに使っている。しかし、相手の話を聴くとは、単に音声を耳に入れることではない。相手が言葉にしきれずにいる思いを、待ちながら受け取ろうとする営みである。

話を聞いている最中、人はつい、次に自分が言うべき言葉を考えてしまう。相手の話が終わる前に答えを用意し、助言や解決策を差し出したくなる。だが、それは相手の話を自分の枠組みに当てはめているにすぎない。相手が語りたかったことは、その枠の外に残されてしまう。

聴くためには、まず自分の考えをいったん脇に置く必要がある。そのうえで、沈黙を恐れず、相手が言葉を探す時間を待つ。そして、受け取ったことを「こういうことでしょうか」と返して確かめる。この確かめの繰り返しによって、相手は自分の思いを整理でき、聴き手も自分の理解の偏りに気づくことができる。

問一 20字以内でタイトルをつけなさい。

問二 傍線部「聴く」とは、単に聞くこととどのように違うのか、文中の言葉を用いて100字以内で説明しなさい。

問三 医師として患者の話を聴くためには、どのような能力が求められるか、またそのためにはどのような経験が必要か、本文の内容をふまえて、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

問一 解答用紙（20 字以内）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二 解答用紙（100 字以内・20 字 × 5 行）

設計図メモ（問三を書く前の整理に使ってください。提出しません）

立場（結論）：
柱①：
柱②（反対意見・留保）：
医療者として：

100字ごとに右に目印があります

This image shows a full page of graph paper. It features a uniform grid of small squares. On the right side, there is a vertical axis with numerical labels at intervals of 100, starting from 100 at the top and ending at 800 at the bottom. The labels are 100, 200, 300, 400, 500, 600, 700, and 800. The rest of the page is covered by the grid without any other markings or text.

類題② 2/9 型（研修医の夜間当直）

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私は医師になって三年目に、地方の病院で月に数回、夜間の当直を任されるようになった。当直の夜は、病棟でも救急外来でも、その場に医師が自分一人しかいないことが多い。

当直の夜は、いつも怖かった。患者の容体が急に変わったとき、自分の判断が正しいのか、誰にも確かめられない。上級医に電話をかけてよいのかも、ためらわれた。夜中に起こして迷惑をかけたくない、という気持ちがあったからである。実際に、電話をかけることを「頼りない」と受け取る空気も、職場には残っていた。

当直の経験が増えると、不安はやわらいだが、休みなく働いた翌朝の疲れは重かった。当時の私には、迷ったときの連絡の基準も、仕事のあとの振り返りの場もなかった。同じ悩みを持つ同僚が、少なくなかったことは、あとで知った。

問一 20 字以内で本文の内容を表すタイトルをつけなさい。

問二 傍線部で著者は「怖かった」と述べている。著者は何を怖く感じたのか、なぜ怖く感じたのか、100 字以内で説明しなさい。

問三 本文全体の文意をふまえて、若手医師の当直の負担につながる医療現場の課題を抽出し、その課題に対してどのような対策が必要かについて、医師を目指す者として自分の考えを 800 字以内で述べなさい。

問一 解答用紙（20 字以内）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二 解答用紙（100 字以内・20 字 × 5 行）

設計図メモ（問三を書く前の整理に使ってください。提出しません）

立場（結論）：
柱①：
柱②（反対意見・留保）：
医療者として：

100字ごとに右に目印があります

This image shows a full page of graph paper. It features a uniform grid of small squares. On the right side, there is a vertical axis with numerical labels at intervals of 100, starting from 100 at the top and ending at 800 at the bottom. The labels are 100, 200, 300, 400, 500, 600, 700, and 800. The rest of the page is covered by the grid without any other markings or text.

類題③ 2/10 型（手順書と現場の判断）

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

安全を守るための方法には、大きく二つの考え方がある。一つは、手順書を細かく定め、それに従うことを人に求める考え方(A)である。手順どおりに行えば誤りは防げるとし、逸脱を「違反」として減らそうとする。

もう一つは、現場の状況は手順書で書き尽くせないと考え、人の判断で手順を調整することを認める考え方(B)である。この考え方では、人は状況を見て柔軟に動ける存在とされ、うまくいった工夫を集めて共有することが重視される。

手順が単純な作業では、(A)が大きな力を発揮する。しかし、状況が刻々と変わる現場で、手順書だけに頼ると、書かれていない場面で人が動けなくなる。一方、(B)だけでは、人によって判断が異なり、ばらつきが生まれる。両者の使いどころを見極めることが大切である。

問一 20字以内で本文の内容を表すタイトルをつけなさい。

問二 傍線部(A)と(B)の考え方では、現場の人に求められることはどのように違うか。本文の内容に即して100字以内で述べなさい。

問三 医療現場の手順書やマニュアルとの付き合い方について、どのような対応が望まれると考えるか。本文の内容をふまえ、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

問一 解答用紙（20 字以内）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二 解答用紙（100 字以内・20 字 × 5 行）

設計図メモ（問三を書く前の整理に使ってください。提出しません）

立場（結論）：
柱①：
柱②（反対意見・留保）：
医療者として：

100字ごとに右に目印があります

[illegible]